

%company%

%free1%

%free2%

%name_sama%

◆中小企業経営者列伝、第15弾。4回シリーズ

不良のリーダーのやんちゃ社長が一念発起で起業
様々な試練を乗り越え
社会人向けビジネススクールでMBAも取得

5次下請けから這い上がりMBAも取得

男なら、

死ぬ時には生まれた時よりも世の中を良くして逝こうじゃないか。

ラックス建設株式会社 代表取締役 山田 哲矢氏

【済】第1回 立身出世の夢—借家育ちの少年が見た未来

【済】第2回 19歳で人生を企画せよ—夢と軍資金500万円

◆第3回 不渡り手形と転落—そしてV字回復へ

◆第4回 フロービジネスからストックビジネスへ—未来への布石

~~~~~  
第3回 不渡り手形と転落—そしてV字回復へ

【目次】

■創業は難し

■不渡り手形

■這い上がれ

■再びの危機

■あとがき

■創業は難し

1991年1月15日。

この日は、会社の創立記念日であり、21歳の自分が「社長」となった日だった。

1年後建設業に転身し、仲間をまとめ現場を仕切る立場となり、仕事は増えていった。  
だが、スタート地点は5次下請け。  
仕事の単価は低く、まともな人材が集まる環境でもなかった。

それでも、「やるしかない」という気持ちで、試行錯誤を繰り返した。  
最初の壁は「人」だった。  
現場に集まるのは、中卒や高校中退、普通免許すら持たない連中ばかり。  
時間を守らない、すぐバックれる、口を開けば不満ばかり。

しかし、いくら環境を嘆いても、そこから抜け出すためには「自分を変える」しかない。  
「まずは掃除からだ」  
そう決めた。

朝から全員で事務所や倉庫を掃除する。  
道具の整理整頓を徹底し、現場での挨拶を義務付ける。  
小さなことの積み重ねが、次第に「この会社は違う」という評価につながった。

次に「資格を取らせる」ことにした。

建設業界では、資格がないとできる仕事に限られる。  
「玉掛け技能講習」「建築施工管理技士」「車両系建設機械運転技能講習」——  
とにかく従業員全員に資格を取らせた。

これで、会社の戦力が底上げされた。  
次にやるべきことは「採用の見直し」だった。

学歴不問、未経験でもOK——  
最初はとにかく人手が欲しくて採用基準を甘くしていたが、  
それでは成長に限界があると悟った。

そこで、高校卒以上・資格保持者を優遇し、未経験者には研修制度を導入。  
すると、徐々に「この会社で働きたい」という人材が増えてきた。

さらに、受注のレベルを上げるため、中小企業家同友会や中国 NBC に加入。  
経営者との人脈が広がり、仕事の幅が広がった。

こうして、5次下請けから少しずつ上へと這い上がっていった。

「ようやく、まともな会社になってきた」

そう実感できたのは、起業から5年が経った頃だった。  
——だが、それは嵐の前の静けさだった。

---

### ■不渡り手形——会社存続の危機

ある日、1枚の手形を受け取った。額面は1000万円。

受け取った瞬間は、特に何も思わなかった。  
手形での支払いは、建設業界ではよくあることだったからだ。  
しかし、それは不渡りだった。

つまり、手形を発行した会社が倒産し、支払いができなくなったのだ。  
当時、うちは売上が1~2億円の規模だった。  
その中で、1000万円が一気に消えた。

当然、その分の仕入れや給料の支払いは残る。  
「……ヤバい」  
すぐに銀行に相談に行った。

それまで、銀行とは良好な関係を築いているつもりだった。  
担当者も「山田さん、いつも頑張ってますね」とにこにこしていた。

しかし、いざ不渡りが出たと伝えた瞬間、彼の顔色が変わった。  
「1000万円、今日中に耳を揃えて返してください」

冗談じゃない。  
そんな金が簡単に用意できるなら、誰も苦労しない。

「待ってくれ」と頼んでも、銀行は聞く耳を持たない。  
「手形を割っている」以上、それは銀行の金だからだ。

「メイン銀行」なんて幻想だった。  
銀行にとっては、ただの貸し手と借り手の関係なのだ。

---

### ■這い上がれ——死に物狂いの資金繰り

すぐに動いた。

まず、持っているものは全て現金化した。

- ・預金を全額下ろす
- ・生命保険を解約する
- ・親戚中を回って金を借りる

1000万円。何とか、ギリギリ揃えた。

翌日、銀行に持っていった。

担当者は「よかったですね」と言ったが、その顔はもう信用に値しなかった。  
この一件で、手形の怖さを知った。

以来、手形には慎重になり、銀行との付き合い方を見直すことを決めた。  
会社が潰れるかもしれない——  
そんな恐怖を初めて味わった経験だった。

---

#### ■再びの危機——小泉政権の公共工事削減

不渡り手形の危機を乗り越え、会社は安定していった。  
順調に売上を伸ばし、ついに5.7億円に到達した。  
だが、それも長くは続かなかった。

2004年、小泉政権が公共工事の削減を打ち出した。

当時、うちの売上の9割は公共工事だった。  
それが、一気に半減した。  
「年商5.7億が、2.4億に落ちる」

一瞬、頭が真っ白になった。

さらに、赤字2300万円。  
もはや、「もうダメかもしれない」レベルだった。

従業員を守らなければならない。  
家族の生活もある。

「俺はここで終わるのか——？」

この危機をどう乗り越えたのか。  
その答えは、

次回「フロービジネスからストックビジネスへ——未来への布石」で明かしたい。

——続く。

---

### ■あしがき

会社を成長させることができても、経営には「波」がある。  
山を越えたと思ったら、次の谷がやってくる。

それでも、「生き残る者」は、そこで踏ん張れる者だけだ。  
この2度の危機を乗り越えたからこそ、今の会社がある。  
今回は、「V字回復」への道をお届けする。

---

編集長 岩下一智 (株) Tiger・HosBiz センター・執行役員  
マーケット・クリエーター(MRC)

いかがでしたでしょうか、お楽しみいただけましたか？

今回は

◆中小企業経営者列伝、第15弾。4回シリーズ

不良のリーダーのやんちゃ社長が一発発起で起業  
様々な試練を乗り越え  
社会人向けビジネススクールでMBAも取得

5次下請けから這い上がりMBAも取得

男なら、

死ぬ時には生まれた時よりも世の中を良くして逝こうじゃないか。  
ラックス建設株式会社 代表取締役 山田 哲矢氏

の第4回 フロービジネスからストックビジネスへ——未来への布石  
をお送りする予定です  
お楽しみに！

~~~~~

■参考図書■Amazon 電子書籍&オンデマンド版

「理念経営道実戦教本」25年3月中旬発売予定・・・予価：3300円（税別）

B5版 約190頁

委細はHP等でご案内いたします。***HPも3月1日よりリニューアルいたします。

著者：(株)Tigre・HosBiz センター

Captain 平本 靖夫

本記事に対するご質問やご感想は下記アドレスまでお願いいたします。

heart_gaia_gi@hosbiz.net

バックナンバーは下記のURLを確認してください。

https://rinenkeieishi.net/mail_magazine/hayabusa.php

*****社名：変更のご案内*****

第3の創業として、理念経営道を全身全霊をかけて普及の取組んでまいりますとともに持続可能な推進体制にするため「ティグレ社」とジョイントビジネス（JB）を組んで小規模企業・中小企業が「地域・業界No.1」となって、持続できるように

「創客 伴走型経営支援」をすすめてまいります。HPをリニューアルした暁には、更に詳しくご案内させていただきますのでよろしくお願い致します

新社名：(株)Tigre・HosBiz センター

~~~~~ 次回予告 ~~~~~

皆様のコメントを励みにして、航海を続けていきますので、重ねてご支援ご鞭撻をよろしくお願い致します。

次回、第686号・2月28日(金)

◆中小企業経営者列伝、第15弾。4回シリーズ

高校中退やんちゃ社長が一念発起  
社会人向けビジネススクールを卒業

5次下請けから這い上がりMBAも取得

男なら、

死ぬ時には生まれた時よりも世の中を良くして逝こうじゃないか。

ラックス建設株式会社 代表取締役 山田 哲矢氏

の第4回 フロービジネスからストックビジネスへ——未来への布石  
を、25・02・28(金)にお届けする予定ですので、  
楽しみにしててくださいね。

※なお内容は予告なく変更する場合がありますので、ご承知ください。

■LittleBiz 企業・中小企業で働く人々や、経営者が幸せでなければ、  
私たちは「世のため・人のため」になれない。  
とクルー一同尽力しております。

最後までお読みいただき感謝いたします。本当にありがとうございます。  
では、また次号で元気にお会いしましょう！

◆発信日・・・毎週・金曜日

◆発行責任者・・・Captain 平本靖夫

◆編集長・・・岩下一智・(株)I&C・HosBiz センタ・執行役員  
マーケット・クリエーター(MRC)・・・CST 開発推進責任者

プロフィール

<https://rinenkeieishi.net/corporate/index.html>inoue

Facebook

<https://www.facebook.com/yasuo.hiramoto>

お問い合わせは「<https://rinenkeieishi.net/contact/form.php>」まで

ご愛読ありがとうございます

著者：(株)Tigre・HosBiz センター

Captain 平本靖夫

プロフィールは

<http://rinenkeieishi.net/corporate/index.html>hiramoto

◆はやぶさ・に関するお問い合わせ・質問は

メールアドレス：kazu\_zohan@hosbiz.net

発行責任者：Captain 平本靖夫、

編集長：岩下一智 MRC